

令和4年度大学における文化芸術推進事業採択一覧

【単位：千円】

	大学名	事業名	事業概要	内示額
1	秋田公立美術大学	複合芸術ピクニック～「創造的 辺境」をむすぶアートマネジ メント教育プログラムの構築～	<p>【概要】「思考を育む」をテーマに、前期（夏期）、後期（冬期）の年2回実施するプログラムを行う。「夏編（企画編）」においては、本学と連携パートナーである京都工芸繊維大学（KYOTO Design Lab *注3）が企画チームを組織し、2つの地域の関係性を探るワークショッププログラム（オンライン）を協働で行う。具体的には、京都における地域トピックを秋田の風土の中で比較・交換すること、また、両地域を中心に国内外から招く多彩なゲストによる講義を通じて、従来型の地域研究系ワークショップの先行事例研究、辺境としての秋田、中央としての京都*注4それぞれの環境／産業／経済／歴史／伝統／習慣の比較を含めた文化と社会を学びながら参照し、対象となる土地の条件や特性に丁寧に対応するプログラムを構築する。</p> <p>【対象】 各地域で進行するプロジェクトを担う学生や自治体職員、地域のNPO職員、メディア関係者、アーティスト、ジャーナリスト等</p>	14,800
2	大阪大学	中之島に甍を放つ一大学博物館 と共創するアート人材育成プロ グラム	<p>【概要】本事業では、本プログラムの拠点となる予定の大阪大学中之島センター近隣の芸術諸機関はもとより、大学近隣の地域社会、また広くアジアやヨーロッパなどから、アーティストと一般市民が集い、多様な生を実現していくためのアート人材を育成する。プログラムには大きく4つの活動のリサーチ・フレームを設定し（「場所のナラティブ」「アートとその分身」「臨床のアート」「日常のポイエティック」）、それぞれのフレームの中に、レクチャー、リサーチ、ワークショップ、クリエーションという4つのステップを組み込み、それぞれの手法で基礎から応用、そして成果公表まで柔軟に配置する。</p> <p>【対象】 アートマネジメント関連職種や芸術系諸機関での就職を希望する人や既に就職している人</p>	16,400
3	沖縄県立芸術大学	地域と共創するリサーチ型芸術 実践に向けた対話と思考の場の 形成と人材育成	<p>【概要】レクチャー&ゼミナール（活動①）では、専門家としての研究者がこうした学術的探究の先に、どのような形で芸術的な表現の可能性を見出していったのかを、講師との対話を通して学ぶ。アーティスト・クロストーク（活動②）では、複雑な歴史的背景をもつ地域や社会の中で、表現者であるアーティストがその記憶の継承にどのように関わることができるのかを、作品の展示や実演を交えながらアーティストたち本人とともに考える。2つのプロジェクト（活動③・④）では、モデルケースとして、令和4年に日本復帰50年を迎える「沖縄」の視点からのリサーチ型芸術実践を実施する。受講生自らが制作に関わるプログラムや、滞制作を行うアーティストとのリサーチや創作のプロセスに関するディスカッションを通して、リサーチ型芸術実践における問題設定や手法、制作プロセスの課題について、受講生たちと共有する。</p> <p>【対象】アートプロジェクトの企画者、美術館等の学芸員・企画担当者、劇場・音楽堂の企画担当者、リサーチ型芸術実践に取り組む、または関心のあるアーティスト、アート型研究実践に取り組む、または関心のある研究者、編集者、アートマネジメントに関心のある学生</p>	14,200
4	九州産業大学	「2042年問題」解決に向けた社会 資源を活用した「健康寿命」 増進プログラム開発とリンク ワーカー人材育成事業	<p>【概要】 1. 博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発講座（博物館などの社会資源を活用した、回想法、園芸療法、音楽療法などの「健康寿命」プログラムの体験、そして企画立案・実施運営の方法を学ぶ講座） 2. 博物館リンクワーカー人材養成講座（博物館などが社会的処方場となるための理論と実践を学ぶオンライン講座） 3. 博物館のリラクゼーション効果に関する実態調査（リンクワーカーがつかないプログラム参加者の生理測定、心理測定による効果評価の調査。対象は児童生徒から高齢者まで幅広い世代とする） 4. 博物館健康ステーションの開設（地域住民を対象に、リンクワーカーが企画立案する博物館浴プログラムを提供する。ミュージアムカフェを開催し、地域博物館における居場所づくりを進める） 5. 海外博物館、美術館などにおける「健康寿命」増進プログラム及びリンクワーカーの実態調査（海外の先進事例を調査し、今後の方策を検討する） 6. 海外の博物館関係者、リンクワーカーを招聘したオンライン国際シンポジウムの実施（海外事例の紹介、及び関係者の交流の場とする） 7. 本事業を紹介する多言語映像資料の制作（海外博物館、美術館などに向け社会資源活用への成果を公開する） 8. 実行委員会の開催（3部会を設ける。①調査研究部会②プログラム開発・評価検討部会③教材開発部会）</p> <p>【対象】 博物館学芸員・図書館司書資格者（休眠学芸員）、博物館学・図書館学を学ぶ学生、博物館・図書館と健康に関心のある市民、在住外国人など</p>	10,000
5	京都市立芸術大学	共生と分有のトポス～公共空間 における潜在的コモンズとその 連続デザイン	<p>【概要】公共空間における分断された不安定な個が緩やかにつながる仕組みとしての「潜在的なコモンズのプロトタイプ」の構築を目標に下記の3つのプロジェクトを進める計画である。 【I】 共生と分有のトポス～「公共空間」における潜在的なコモンズを社会化する手法。 【II】 想起と記憶のあいだのケアのカタチ～「ケア」を起点に社会を捉え直しアートが有する技術や領域を分有する。 【III】 芸術の生態系と社会のインフラ構築～芸術文化を支える人材の社会的なインフラのオルタナティブな「環境」それぞれのプロジェクトは個別のテーマに基づいて進められますが、完全に独立した活動ではなく、知識や経験を分有しながらプロジェクトが共生するデザインとなっている。 また3つのプロジェクトは【I】レクチャーリサーチ、【II】セミナー×創造実践、【III】記録X発信という3つのフェーズを総合した形をもち、作品展示・鑑賞という従来のアートの学びのフォーマットを多元化する試みともなっている。</p> <p>【対象】アートマネジメントを目指す大学院生や社会人、行政の文化政策やまちづくり担当者、社会との関わりに意欲をもつアーティスト、開かれた美術館のあり方を模索する学芸員、創造性を活用した教育を目指す教員や教育学部の大学院生、コミュニティアーカイブの作成を目指す市民</p>	10,300
6	京都精華大学	マイノリティの権利、特にSOGI をはじめとした（性の多様性） に関する知識と、それらを踏ま えた表現倫理のリテラシーを備 えたアートマネジメント人材育 成プログラム	<p>【概要】 メディア表現やアートプロデュース、表現倫理を学ぶ学生、アートプロジェクトの運営にかかわる実務者、大学教員をはじめとした研究者らが協働し、アートと倫理を基本軸に、ジェンダー平等やSOGIへの視点を持ちつつ、テキストブックなどのメディアコンテンツを制作し、公共機関との連携による作品発表機会およびイベントプログラムの実践や、SNS等様々なプラットフォームメディアを使って発信する。</p> <p>【対象】 アート表現やアートプロデュース、表現倫理を学ぶ学生、アートプロジェクトの運営にかかわる実務者、大学教員をはじめとした研究者</p>	12,900

令和4年度大学における文化芸術推進事業採択一覧

【単位：千円】

	大学名	事業名	事業概要	内示額
7	佐賀大学	佐賀モバイル・アカデミー・オブ・アート～オールコミュニケーションを核としたアートマネジメント人材育成事業	<p>【概要】活動① アートを楽しむ人の育成：耳で聴くアートセオリー美術史や美学の入門的内容を音声による学習プログラムとしてネット配信。活動②③受講生に対して美術の基礎的な知識・理論を提供するとともに、美術を学ぶことの楽しみを世間に広くアピールし、将来、美術大学への進学やアートマネジメント関係の仕事を目指す人材予備軍への布石とする。</p> <p>活動② アートを伝える人の育成：「わかばりポーター」によるネットラジオ番組作り 音声メディア専門の講師による指導を受けながら「わかばりポーター」が近隣の美術館を取材し、展覧会および出品作について話し言葉で伝えるネットラジオ番組制作に取り組む。</p> <p>活動③ アートを支える人の育成：「わかばキュレーター」によるネットラジオ番組作り 「わかばキュレーター」が音声による展覧会として各自ネットラジオ番組（音声作品発表＋美術家インタビュー）制作に取り組む。</p> <p>【対象】 活動① 美術・表現活動に関心ある 高校 生・大学生・社会人 活動② メディアリテラシー アートリテラシー、情報発信スキルを磨きたいライター・リポーター・批評家志望の学生・社会人等（主に初心者対象） 「わかばりポーター」 活動③ コミュニケーションスキルやアートマネジメントスキルを磨きたいキュレーターやマネジメント志望の学生 「わかばキュレーター」</p>	7,400
8	昭和音楽大学	「実演舞台芸術の新たなビジネスモデルを構築する」～ポスト・コロナ時代のためのアートマネジメント人材育成	<p>【概要】コロナ禍に加速した変化をとらえて、実演舞台芸術における新たなビジネスモデルの構築及びそれに資する人材育成を行う。コロナにより、スタッフの人数削減・ディスタンス確保、海外からのアーティストや技術者の招聘不能などへの対応が迫られる中で、その対策として、オンラインや映像プロジェクトなどの最新技術を取り入れることで、上演水準の確保と制作手法の合理化等の工夫を急速に重ねることとなった。これからの実演舞台芸術の制作において、各団体が蓄積されたこれらの経験と知見を共有し、経済的合理性を確認見しつつ、制作を支えるアートマネジメント人材の育成が急務である。2022年度は、イタリア人指揮者・演出家の事前指導にオンラインを活用しながら、オペラ《モーツァルト：フィガロの結婚》を制作すると同時に、その制作過程を活用しながら、3つの人材育成講座を実施する。</p> <p>【対象】劇場、音楽堂、文化施設、自治体、文化財団、芸術 団体、音楽事務所などの職員、スタッフ、芸術文化担当者、およびアートマネジメント専攻の学生・卒業生等</p>	14,700
9	政策研究大学院大学	劇場活動にかかる評価リテラシー育成のための教育プログラムの開発：自己評価ガイドブックの作成及び調査アプリの開発	<p>【概要】①評価リテラシー育成のための特別講座（15コマ：ストリーミング配信） 「政策評価の基礎と応用」（5コマ）、「評価事例の研究」（7コマ）他全国で受講可能なストリーミング配信を継続実施する。 ②自己評価事例データベースの構築 協力劇場毎にロジックモデル等を作成し、必要なベンチマークを抽出するなど自己評価を試みる。 ③ツール開発とデモンストレーション（本学） ②と並行して、スマホとQRコードを活用した＜非接触型＞調査アプリ（調査配信・回収、結果集計・分析機能を搭載）の開発を行う。このアプリは、調査に関する専門性がなくても操作が可能で、調査コストをほぼゼロにするものであり、評価のエビデンスとなる基礎的なデータの収集が格段に容易になることを目指す。</p> <p>【対象】地域文化活動の拠点として主導的な役割を担う公立の劇場・音楽堂等において、舞台制作の企画や実践に関して経験を積んだミッドキャリア現職者。</p>	22,000
10	東京音楽大学	伝承を担うフィールドからまなび、ともにつくり、地域へつなぐアートマネジメント人材育成～伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指して～	<p>【概要】制作者が企画を立案・構成するにあたって、伝承の現場に足を運び学ぶためのプログラムを開発する。伝統音楽・芸能のみならず育んできた環境に目を向け、担い手やそれを支えるコミュニティの意志を尊重しながら企画を成功に導くためには、情報の集め方や倫理的な側面などこれまでの学術的フィールドワークの方法論を基盤としながら、企画立案の展開までを視野に入れた異なる視点も求められる。「①基礎講座：フィールドからまなぶための基礎講座」、「②実践セミナー：フィールドへの「留学」と成果の発信」を展開するとともに、あわせて①②の活動を経て「企画立案のためのフィールドワーク」の新たな方法論を構築することも本事業の大きな目的とする。</p> <p>【対象】政府・自治体等の各担当者（芸術文化企画・文化財保護・国際交流・地域 振興・学校教育・生涯学習・福祉）、文化施設関係者、伝統音楽・伝統芸能団体関係者、学校教育関係者、演奏者・演奏団体関係者、アートマネジメントに従事している者又は志す者、当該地域の音楽・芸能を生かした地域創生等に関心がある一般居住者</p>	19,300
11	東京藝術大学	インターメディア型プロジェクト・ベースド・ラーニング実践プログラム	<p>【概要】本事業を通じて、国内外の文化芸術が抱える課題解決につなげるべく、学術的な知見を深め、同時に実践的な経験を重ねていく、同時代芸術を専門とした人材育成プログラムとする。</p> <p>「活動①エコソフィー・レクチャーシリーズ」人文社会諸学を包括するエコソフィーの視座について習得を図るための、ツアーパフォーマンスやポストドキュメンタリーといった新たな芸術モデルの構築をワークショップ形式で自らのテーマで取り組んでいく。</p> <p>「活動② メディアプロジェクト演習」を実施する。</p> <p>「活動③ ポストドキュメンタリー・ラボ」では、「ポストドキュメンタリー」の批評性を高めた芸術表現のための歴史や技術を実践的に学んでいく。</p> <p>「活動④ シーレーン国際共同リサーチ」を実施し、アジア太平洋地域の調査を歴史的かつ地理的に対象を広げ、シーレーン（航路）をメインテーマに国内外の研究機関と連携を取り合い、共同リサーチとして学際的活動とする。</p> <p>「活動⑤アートプラクティス R&D」を重点化することで、参加者自らが取り組む活動が広く評価されることを目標とし、同時代芸術の現場で活躍するアクチュアルな人材を育成する。</p> <p>【対象】同時代の芸術表現を実践的に問い直そうとする、アーティスト、演出家、映像作家、プロデューサー、キュレーター、研究者、エンジニア、建築家、編集者、プロジェクトマネージャー等</p>	17,500
12	東京藝術大学	「すみだ川アートラウンド」～ARTs×SDGsでつながる隅田川流域の民間組織コレクティブ化構想	<p>【概要】令和4年度は以下の3つの事業を実施する。</p> <p>(1) すみだ川アートラウンドテーブル —— Arts×SDGsの対話と実践計画作戦会議 計5回実施（基調講演・3回のラウンドテーブル・フィールドワーク）</p> <p>(2) すみだ川アートラウンド・プラクティス —— 地域内のアートNPOのコレクティブ化計画 ワークショップ事業を中心とした計6プログラム（12回～24回）程度の実施。</p> <p>(3) すみだ川アートラウンド・ハブ —— 流域で活動する官/民の交流の場 官民それぞれの団体があつまるピアレビューを各1回ずつ計2回実施。</p> <p>【対象】アートNPO関係者、アーティスト、企業や行政（外郭団体を含む）の職員、大学生や文化ボランティア経験者、市民など。</p>	17,300
13	東京工芸大学	アート&テクノロジーマネジメントにおける高度な理論及び実践力を持った工芸融合人材の育成	<p>【概要】</p> <p>①【アート&テクノロジーマネジメント講座】 ②【カラボギャラリー前期企画展 光が伝わる、光で伝える（仮）】 ③【カラボギャラリー後期企画展 色を記録する展（仮）】 ④【メディアアートプロジェクト マインド・タイム・マシンI】 ⑤【国際シンポジウム及び情報公開】</p> <p>【対象】アートマネジメント職を志願する学生・社会人、アーティスト、デザイナー、工学研究者、教育関係者、自治体の文化芸術担当職員、美術館・博物館の学芸員</p>	14,400

令和4年度大学における文化芸術推進事業採択一覧

【単位：千円】

No.	大学名	事業名	事業概要	内示額
14	東京大学	文化芸術におけるSDGsのためのファシリテーター育成事業	<p>【概要】【活動①：レクチャー&ラウンドテーブル/シンポジウム】本事業全体の導入および基盤、成果報告として位置づけられるプログラムで、(1) 導入についてはレクチャー、(2) 基盤についてはラウンドテーブル、(3) 成果報告についてはシンポジウムとして活動を行う。</p> <p>【活動②：首都圏のコミュニティスペースのファシリテーション】ディレクターとファシリテーターと受講生が、(1) 首都圏のコミュニティスペースやアソシエーション、福祉活動を調査し運営者のインタビューをレポートにまとめ、(2) 首都圏のコミュニティスペース、アソシエーション、福祉情報の収集、多言語によるライフライン・ガイドの作成をする。(3) また、コミュニティスペースで必要とされるコンテンツ開発をワークショップとして議論・実践していく。</p> <p>【活動③：記録と資料を使用した表現におけるアートマネジメント】在日外国人のリサーチ(映像記録)をテーマに沿ってアーティストによるリサーチと発表、リサーチに必要な知識のためのワークショップを開催する。</p> <p>【活動④：ツール開発】「環境変化と地元の文化資源保護・活用」をテーマに「自然災害とアート」「コロナが変える環境と観光」として、ツール、サイン、プロダクト等の開発、頒布し効果測定を行う。</p> <p>【活動⑤：多言語交流ヒューリック】は、オンラインでの多様な文化的・社会的背景を持つ人との文化芸術の交流会の実施と文化芸術の交流の場の調査を行う。</p> <p>【対象】(1) 芸術施設やアートプロジェクト等でアートマネジメントに従事している者、(2) SDGsの取り組み文化芸術に関心のあるアーティストや研究者、(3) 文化芸術の分野の行政やNPOの職員、(4) 文化芸術におけるSDGsの取り組みと協働することに興味のある企業や教育関係者、(5) アートマネジメント職を目指す学生や社会人</p>	21,600
15	東北芸術工科大学	ポスト・コロナ社会に対応した「カルチュラル・プラットフォーム・ビルダー」人材育成プログラム	<p>【概要】①「民俗知」、②「屋根のない美術館」、③「福祉とアート」、④「ワークショップ」の4つのプログラムにより、それぞれの切り口でポスト・コロナ社会に対応するプロジェクト開発を進め、9月に開催予定の「山形ビエンナーレ2022」においてプロトタイプとしてのプラットフォーム構築の社会実験や中間発表等を行う。後半では、その成果についての検証や評価等をアーカイブし、次年度に向けて冊子やウェブサイトを取りまとめを行う。</p> <p>【対象】美術館・博物館・ホール・図書館等の公共施設・文化施設の職員、自治体の文化芸術・生涯教育・地域振興等担当職員、学校教職員、アーティスト・デザイナー・建築家・工芸作家・編集者・ライター等のクリエイター、広告・イベント・制作等企業の担当者、商店街組合・協議会・商工関係・不動産・店舗等の経営者・個人事業主、保健・医療・福祉関係者、まちづくりや文化芸術活動に関心のある市民・学生など</p>	16,900
16	鳥取大学	社会的包摂を具現化させるアートマネジメント人材育成事業	<p>【概要】本学地域学部国際地域文化コース教員(専門領域：包摂型アートマネジメント論、創造都市論、美術、ダンス、メディア)を中心に、学部内の関係教員や附属特別支援学校と連携して講座やワークショップを実施する。なお、全体の連絡・調整を行うコーディネーター(特命専門職)を増員し、事業全体を有機的に関連づけて、受講生一人ひとりの気づきを深めて行動変容に結びつくよう留意する。</p> <p>本事業は、社会的包摂とは一人ひとりの気づきと実践によって始まることを学ぶ連続講座と、実践経験豊富なアーティスト等から実体験を通じた学習機会を提供する。さらに、それぞれの講座やワークショップの中で障害のある児童生徒とも関わりながら、社会的包摂を「自分事」として考えるアートマネジメント人材を育成する。</p> <p>【対象】文化芸術による社会的包摂に関心のある文化施設職員、福祉施設職員、学生、教員・行政職員等</p>	10,000
17	名古屋市立大学	ヘルスケアアート活動をつなぐオンラインネットワークの構築—コロナ社会の医療福祉環境改善に資するアートマネジメント人材育成—	<p>【概要】オンラインを活用してヘルスケアアートに関わるネットワークの構築をはかるために以下の4つの事業を実施する。</p> <p>A. ヘルスケアアート・オンライン美術館「デジタル技術を用いたヘルスケアアート」</p> <p>B. ヘルスケアアート・オンライン研究会「救急医療のヘルスケアアート」</p> <p>C. ヘルスケアアート・オンライン学習会「北欧におけるヘルスケアアート」</p> <p>D. ヘルスケアアート・オンライン全国サミット「ポストコロナ社会のヘルスケアアート」</p> <p>【対象】医療福祉などヘルスケア施設のアートコーディネーター、企画広報担当の職員、医療現場の看護師、理学療法士、美術館・博物館の学芸員、社会教育あるいは文化芸術分野のNPO職員、アート関連の市民ボランティア、建築設計者、インテリアデザイナー、アーティスト、芸術・デザイン系の大学に在籍する学生など</p>	6,900
18	奈良県立大学	地域の多層化と共有空間の創造に向けた実践型アートマネジメント人材育成プログラム CHISOU	<p>【概要】令和4年度は、本事業を発展的に継承し創造的連環を地域に広げていくことを目的に、「共有」に重点をおく4つのプログラムを設ける。</p> <p>①CHISOU レクチャーシリーズ「知を重ね、層をつなぐ、技と思想」</p> <p>②アーティスト創造実践演習「語り/言葉」</p> <p>③アーティスト創造実践演習「装い/身体」</p> <p>④表現実践演習「共在/多感覚」</p> <p>【対象】美術館や博物館、芸術祭などアートプロジェクトの現場で企画運営に携わる実践者。文化芸術や地域創造、都市計画に関する研究者や実務家。若手アーティスト。アートマネジメントやプログラムコーディネーター、キュレーションに関わる仕事をを目指す学生。文化芸術を活用した地域創造、観光振興、都市計画に関心のある地方公共団体職員や一般市民。美術館・博物館ボランティアや芸術愛好家。</p>	20,400
19	広島市立大学	街に介入する芸術、その公共性の議論を促すメディアーター養成プラットフォーム	<p>【概要】学内に芸術による創造都市への介入の需要や方法を開拓する組織「広島芸術都市ハイヴ」Hiroshima Arts&City Hive (HACH) を設立し、活動拠点とするとともに、調査実践を行い、3つのキュレーション、レクチャー、ワークショップ活動を展開する。</p> <p>活動①(アン) モニュメント・プラットフォーム(企画・運営力、キュレーション能力、協業体制構築能力の向上)</p> <p>活動②カタログHiroshima(1894-2025)(企画・運営力、調査・認識力、発信力の向上)</p> <p>広島の文化芸術資料を横につなげるために、協働で広島の都市と美術の歴史を再認するためのアーカイブ管理システムまたはCMSの活用・構築を促進して、カタログの編集を進める。</p> <p>【都市介入ワークショップ】(企画・運営力、設置実践力、協業体制構築能力の向上)</p> <p>住民や様々な利害関心が異なる団体との交渉・契約・リスク管理・資金調達をもとに都市に介入するさまざまなアートの設置ノウハウと技術(壁立て、資料展示台、作品インストール、サイン計画など)についてワークショップを通して学ぶ機会を提供する。</p> <p>【対象】アーティスト、リサーチャー[芸術分野だけでなく、社会科学・人文科学も含む]、批評家・編集者、記者、歴史家、デザイナー、学芸員、図書館司書、アーキビスト、アートマネジメント従事者、学生、作品解説やツアーなど鑑賞者教育を行うメディアーター、文化芸術分野の行政・NPO職員・一般市民、企業の地域支援課職員</p>	16,600

令和4年度大学における文化芸術推進事業採択一覧

【単位：千円】

大学名	事業名	事業概要	内示額
20 北海道教育大学	プロジェクト JOMON 一北海道・北東北の縄文文化をテーマとしたアートマネジメント人材養成プログラム	<p>【概要】</p> <p>・「プロジェクトJOMON セミナー」の開催：専門家（考古学、民俗学、アート、メディア等）を講師に迎えたレクチャー及びフィールドワークにより、理論面を学ぶとともに歴史を体験することで、縄文文化を現代社会の手法によりマネジメントする能力を養う。</p> <p>・展覧会の開催：レクチャー及びフィールドワークで学んだノウハウをもとに、実践を行う。</p> <p>・活動報告書の編集・発行：本事業の講師、受講生などによるセミナーレポート、関係者へのインタビューなどを一冊の報告書として編集・発行する</p> <p>【対象】北海道内の芸術家・芸術団体の関係者、政府・自治体・企業の芸術文化広報・企画担当者、企業の企画担当者、マスメディア、インターネットメディア関係者、一般市民等の既にアートマネジメントに従事している者及びアートマネジメントを志す者</p>	7,600
21 北海道大学	ミュージアムにおける異分野との「対話」と「寄り添い」を通じた人材育成事業	<p>【概要】</p> <p>本プログラムの1年目は、「ミュージアムをめぐる対話（ANALYSIS）」と題して、ミュージアムが新たな機能を担うために必要となる、対象領域や対象組織が、ミュージアムをどう捉えているのかを「対話」を通じてつまびらかにしていく。</p> <p>その入り口として、well-beingをテーマにキックオフのシンポジウムを開催する。引き続き、講師を招聘して、会場の育成対象者と対話を積み重ねていく。「ミュージアムをめぐる対話（ANALYSIS）」(1)～(4)を開催する。最後にクロージングのシンポジウムとして、ミュージアムにおける「見える」化を育成対象者とともに考える。2年目の前半も「対話」に係る活動を行う。</p> <p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育系専門職（ミュージアム学芸員を中心に、司書、アーカイヴィストなど） ・文化施設系専門職（ホール・劇場の担当者、制作者、プロデューサーなど） ・自治体職員（文化政策、文化施設、観光政策の担当者など） ・NPO職員（公共文化施設の指定管理者、業務受注組織のスタッフなど） 	13,700
22 横浜国立大学	都市空間に創造的に応答していく視点を持ったアートマネジメント人材育成プログラム「都市と芸術の応答体2022」	<p>【概要】</p> <p>都市と芸術の応答を実践的・実験的に編み直すラーニング・コレクティブとして本事業を深めていく。都市基盤としての土地を思考する、映像制作を中心としたワークショップ「物語としての土地」（活動②）により集団的な思考のベースをつくり、作品に留まらない展開可能性を探る実験発表のワークショップ&ビューイング（活動③）で活動を外に開いていく。自分が住んでいる都市の活動や場所を批評的に観察する態度や方法をさまざまな実践から学び、新たな芸術のあり方を検討する連続セミナー+企画制作「都市活動と芸術」（活動①）を通じて、各受講生の住む都市や日常生活の活動や場に対する新しい視点を獲得し、作品の企画制作を行う。</p> <p>段階的な制作の発表と試行の設定により、本事業での思考・実践を社会に開いていく。</p> <p>【対象】</p> <p>文化芸術・文化行政の分野で活躍するグローバルな人材（美術館・劇場職員、行政・NPO職員、ボランティアリーダー）、社会や都市への意識を持つアーティスト、学芸員、創造性を活用した教育を目指す教員、分野を超えていくアートを考えたいと考えている学生・社会人、まちづくりの分野で活躍する人材</p>	12,900
23 早稲田大学	舞台公演記録のアーカイブ化のためのモデル形成事業	<p>【概要】</p> <p>舞台公演記録および関連資料をアーカイブするための各種処理をこなし収益力強化に結び付けることのできるアートマネジメント人材育成のために、「理論編：舞台芸術のアーカイブの意義と必要性」「技術編①：アーカイブの基礎とデジタルデータの適切な保存と管理」「技術編②：著作権と契約」「実践編：ワークショップ」という柱を立て、夏季集中講座を中心に全12コマの連続講座を開設する。</p> <p>【対象】演劇・舞踊・伝統芸能等舞台芸術の劇団や劇場、公演団体等のスタッフ・制作者、および大学で演劇や映像、アートマネジメントを学ぶ／学んだ学生を主たる対象とするが、舞台芸術の研究者や、各種文化施設の学芸員、キュレーターやアーキビストなどにも門戸を開く。</p>	13,400

331,200

【応募・採択状況】	
応募件数	28件
採択件数	22件
採択率	78.6%
合計	331,200千円

令和4年度
大学における文化芸術推進事業
協力者会議委員一覧

大越 久子 埼玉県立近代美術館 主任専門員兼学芸員

加納 民夫 日本音楽財団 常務理事

渋谷 拓 金沢美術工芸大学准教授

久野 敦子 公益財団法人セゾン文化財団常務理事

間瀬 勝一 公益社団法人全国公立文化施設協会アドバイザー

(五十音順・敬称略)

※委員が関係する事業の審査については、当該委員はその事業の審査に加わらない形で審査を実施した